

森を育てる 森を引き継ぐ

日本三大美林のヒバ林、白神山地のブナ林、県南のアカマツ、スギ人工林など多様な森林が県土面積の66%を占めています。

このうち、天然ヒバの資源量は全国の約8割を占めており、スギ人工林の面積は、全国第4位の約20万haとなっています。

林業の全国ランキング

1 天然ヒバの資源量	第1位	令和5年
2 スギ人工林面積	第4位	令和4年
3 素材(丸太)生産量	第6位	令和4年
4 森林面積	第9位	令和3年



スギ

青森県のスギの資源量は全国有数。冬の厳しい寒さに何十年も耐えて育った青森のスギは、美しい木目と柔らかな色合いが特徴です。肌触りも良く、建築物のほか、家具や建具にも使われ、全国に流通しています。



ヒバ

青森県には、「木曽ヒノキ」「秋田スギ」と並ぶ日本三大美林の一つである「青森ヒバ」の天然林が広がっており、主に津軽半島と下北半島に分布しています。抗菌、防腐、防虫効果がある成分「ヒノキチオール」が含まれ、木材の優等生と言われています。すがすがしい香りは、心身をリラックスさせてくれます。

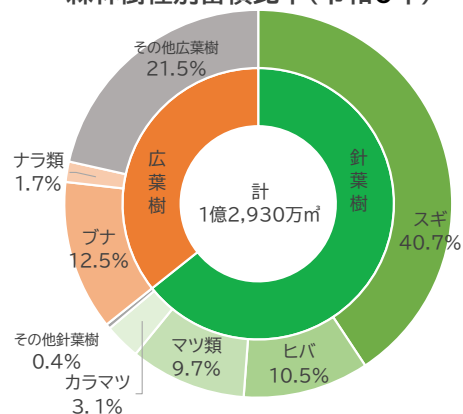


アカマツ

「南部アカマツ」は、その名の通り主に県南地方に分布しています。曲げ強度が高く、梁に最適です。

粘り強さや曲がりの美しさを活かし、神社や仏閣といった歴史的建造物にも使われています。年月が経つにつれて上品なあめ色に変化していくのも、大きな特徴の一つです。

森林樹種別蓄積比率(令和6年)



出典:青森県森林資源統計書



青森きくらげ栽培試験

特用林産物の生産

青森県では、しいたけやなめこ、まいたけなどのきのこや、うど、タラの芽、ウバミソウなどの山菜が生産されています。

特用林産物の生産額の約5割は、きのこ類が占めています。



伐って

青森県の森林は、戦後に造林された人工林を中心に本格的な利用期を迎えています。森林の伐採を効率的に行うため、航空レーザを活用した森林資源の解析の実施や高性能林業機械の導入を支援しています。

使って

青森県では、県産木材を使った住まいづくりを推奨しています。「あおり産木材活用建築コンテスト」を毎年度開催し、県産木材の利用促進に努めています。



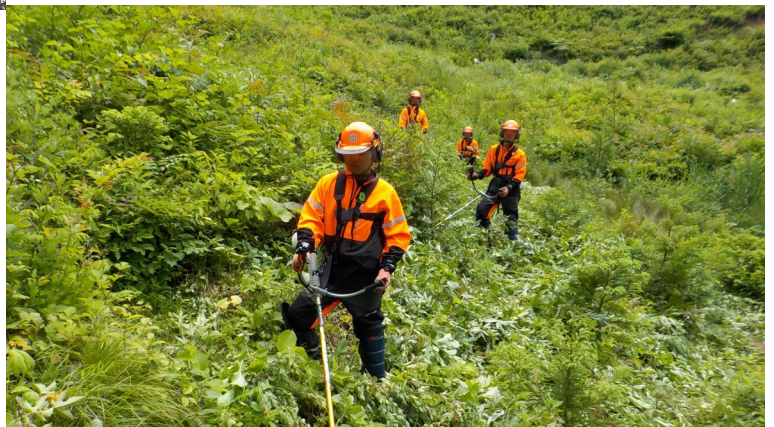
県産材建築物（R6あおり産木材活用建築コンテスト最優秀賞）



植えて

造林に要する森林所有者の負担が大きいことなどが原因で、全国的に再造林が行われない伐採跡地が増加しています。

青森県では、造林コスト等を低減するため、造林作業の効率化等が図られるコンテナ苗の導入や、伐採から造林まで一体的に行う一貫作業、低密度の植栽などを促進しています。



育てる

森林は、適切に管理を行わなければ二酸化炭素の吸収や、水源のかん養などの公益的な機能が低下します。

青森県では、造林後の森林を適切に管理するため、植栽した木を成長させるための下刈りや、成長した木を間引く間伐などの森林整備作業を支援しています。



青森県オリジナル品種「青森きくらげ」の生産が拡大

県産業技術センターが開発し、令和2年7月10日にデビューした県オリジナルのきくらげ新品種「青森きくらげ」は、年々生産量が増加しています。

輸入の乾燥品が多い中で、夏季を中心に、主に生で流通する青森きくらげは、肉厚で歯ごたえが良く、コリコリとした食感が特徴です。香りに癖がないので、どんな料理にも良く合います。

